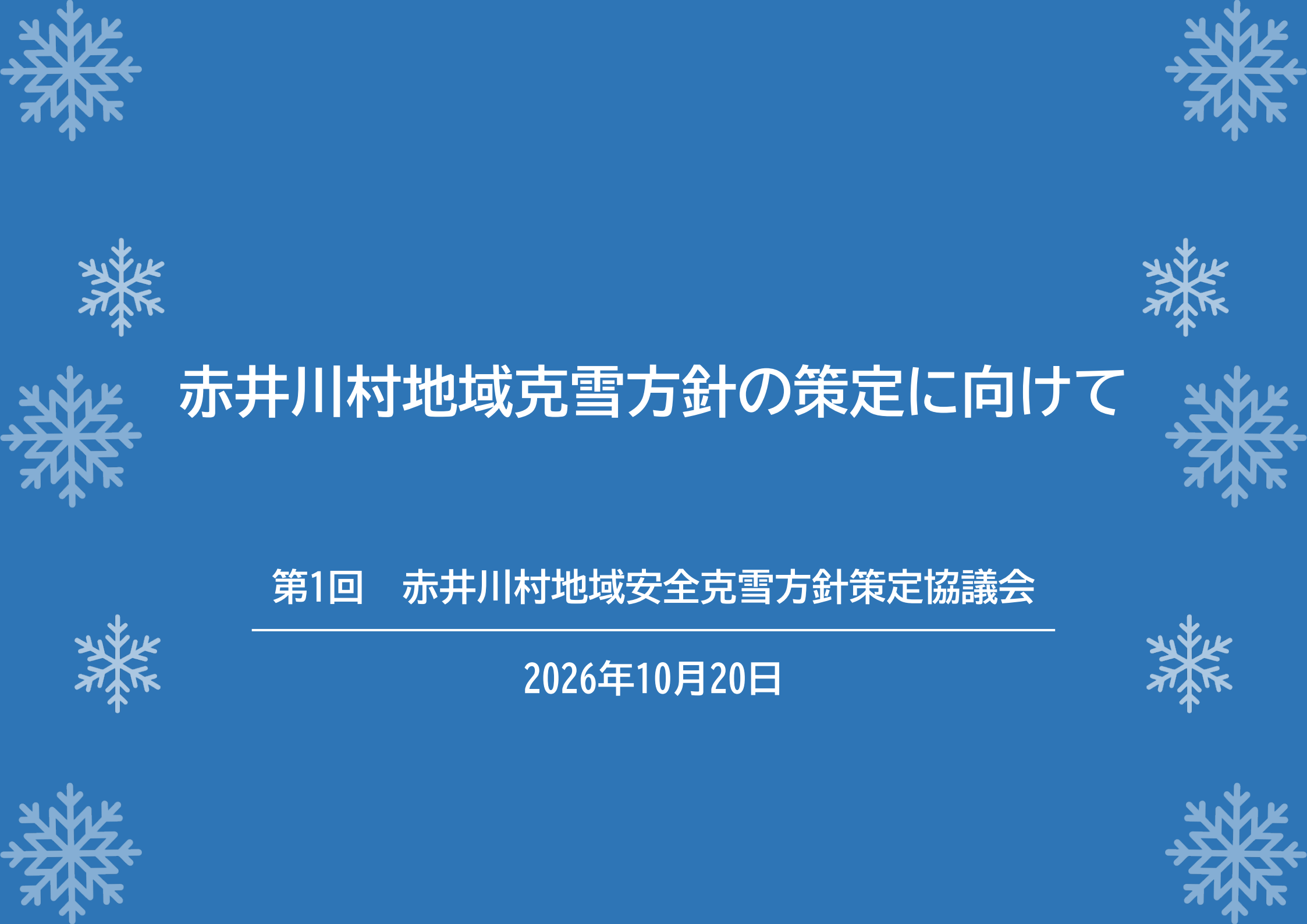




赤井川村地域克雪方針の策定に向けて

第1回 赤井川村地域安全克雪方針策定協議会

2026年10月20日

01	昨年度の振り返り	・・・・・・・・・・	P	2
02	在宅高齢者除雪支援助成制度の見直しについて	・・・・・・・・・・	P	5
03	冬の安全対策講話	・・・・・・・・・・	P	8
04	今後のスケジュール	・・・・・・・・・・	P	12

□ 昨年度の検討成果と主な課題

- 令和7年度は、地域の実態を把握し、方針の方向性を整理しました。

実施した調査・検討

- 人口・積雪・除排雪体制と支援制度を整理
- アンケート回答：支援対象者99件／担い手世代73件
- 事業者等へのヒアリング・先進事例調査
- 基本理念・基本目標と6つの取組案を検討

明らかになった課題

- 除排雪作業中の死傷事故4件（令和3～7年度）
- 在宅高齢者除雪支援助成金の交付実績は34件（令和7年度）
- 高齢者の除雪負担、転倒・落雪への不安
- 除排雪事業者から将来の体制維持に懸念
- 突発的な除雪依頼、雪置場・命綱使用設備の不足

□ 基本理念・基本目標（案）

- 昨年度は、基本理念と3つの基本目標（案）を整理しました。

地域で支え合い、誰もが冬を安全に暮らし続けられるむらづくり

I

除排雪支援を基盤に冬の生活安全を確保する

- ✓ 支援制度の見直しと除雪事故の防止

II

地域の共助を活かした支援体制をつくる

- ✓ 地域内外の担い手を活かした除雪支援体制の構築

III

冬期の外出・交流機会を確保し、孤立を防ぐ

- ✓ 冬期の外出・交流の機会づくり

□ 冬期生活の安全確保に向けた主な取組（案）

- 3つの基本目標に対応する、6つの取組案を整理しました。

基本目標	区分	主な取組	主な目的
Ⅰ 冬の生活安全	継続・見直し	在宅高齢者除雪支援助成制度	高齢者世帯の除雪負担を軽減
	試行	高齢者向け除雪安全講習	除雪事故防止と安全行動の定着
	検討・試行	団地の除雪ルールモデル	除雪範囲・役割分担を明確化
Ⅱ 地域の共助	検討・試行	地域内外の人材による除雪支援	有償・無償の人材による支援を検討
	検討	大型特殊免許取得費用助成	除排雪に従事する担い手を確保
Ⅲ 外出・交流	中長期	冬期の居場所づくり	外出・交流機会の確保と孤立防止

□ 制度改正の概要

- 令和8年度の制度改正をもって、対象要件の緩和は当面の完成形とします。

在宅高齢者除雪支援助成制度 | 年度別の改正点

共通する前提条件 **世帯全員が65歳以上、かつ非課税世帯**

令和7年度 対象要件を3点緩和

1 障害等級の対象を拡大
身体障害者手帳 1～3級 → 1～6級

2 同居世帯も対象に
介護者等と同居でも、非課税など生活困窮が認められる場合(一定の収入基準あり)

3 入院中も対象に
3か月程度の入院であれば、入院期間中も対象

令和8年度 80歳以上世帯を追加

新たな対象世帯

世帯全員が80歳以上

共通条件のみで対象（追加要件なし）

※従来は、共通条件に加えて次のいずれかが必要
単身世帯 / 生活保護世帯 / 身障手帳保持者
/ 要介護認定者

まとめ	対象	世帯全員が65歳以上、かつ市町村民税非課税の世帯 で、次のいずれかの方に該当 単身世帯 / 身体障害者手帳あり / 要支援・要介護認定あり / 生活保護を受給
	ただし①	世帯全員が80歳以上の非課税世帯は、上記に該当しなくても対象 （令和8年度の拡充）
	ただし②	介護等で同居する方が課税でも、生活困窮と認められれば対象 （令和7年度）

□ 令和7年度 在宅高齢者除雪支援助成金

交付実績は34件・1,622,800円

単身世帯要件が**14件で最多**、要介護世帯要件が**590,400円で金額最大**

交付実績 合計

34件 (35件)

1,622,800円
(1,727,000円)

4つの要件による
交付実績を合算

要件	件数	交付額
身障要件 要件拡大効果(手帳等級拡大1件、同居介護者要件1件) 2件	9件	428,600円
生活保護要件	1件	40,000円
単身世帯要件 対象世帯最多	14件	563,800円
要介護世帯要件 助成金額最大	10件	590,400円

注 ()は、令和6年度交付実績

注 対象世帯の要件は、助成対象者の主たる要件によりカウント

□ 高齢者生活ニーズ分析

■ 除雪ニーズが突出し、冬季生活支援の強化が最優先

令和7年度高齢者生活実態調査の結果から、除雪支援に関する高齢者ニーズは高く、冬期の暮らしを支える仕組みづくりが求められている。

01 除雪

地域サービスニーズで
最も高い

次に続くニーズ

02	移送サービス	通院・買い物・通いの場への移動
03	サロンなどの集いの場	社会参加と孤立予防
04	見守り・声掛け	日常の変化を早期に把握
05	外出同行	外出機会と生活継続を支援

必要な対応 冬期における **除雪＋安全確保＋安否確認**を 一体で整備

背景リスク

85歳以上で介護・フレイルリスクが上昇 ／ 支援が必要でも制度につながらない層が存在

□ 高齢者生涯学習講座における冬の安全対策講話の概要

- 冬期において高齢者の被災割合が極めて高い「除排雪作業中の事故」等を防止するため、専門知識を持つ講師による実践的な講話を開催し、受講生の安全意識の向上と具体的な予防行動の定着を図ることを目的としています。

開催概要

日時	11月19日（木）11:00（1時間程度）
場所	赤井川村健康支援センター
対象	悠楽学園大学受講生・村内高齢者
人数	約30名（概ね65歳以上）

全体プログラム（案）

- ① 講話・チェックリスト：「除排雪作業中の事故」のうち屋根雪下ろし事故防止のポイントを共有
- ② VR（仮想現実）動画体験：危険場面を疑似体験し、安全行動を考える
- ③ アンケート調査：理解度や安全行動への意向を把握（ご協力のお願い）

□ 講話・チェックリスト

- 講話に加え、安全な除雪に向けたチェックリストを活用し、安全意識の向上を図ります。

講話とチェックリストを組み合わせた取組

冬の安全対策講話（11月19日）

屋根雪下ろしなど、除排雪作業中の事故防止に向けた注意点を説明

チェックリストの活用

講話の内容をチェックリストで振り返り、安全な除雪行動を意識づけ

本日の協議：赤井川村に必要なチェック項目の検討

① 国の資料を確認

国土交通省のチェックリスト（別紙）をベースとして共有

② 全員で議論

委員全員で確認する時間を設け、赤井川村に必要な項目等を議論

③ 項目の整理

追加・修正が必要な項目を整理し、講話での活用につなげる

□ VR（仮想現実）動画体験

- VR動画で危険場면을疑似体験し、事故防止の意識を高めます。



出典：株式会社キシブル

VR動画体験の進め方

01 事前説明

動画のねらいと体験時の注意点を説明



02 動画を体験

除排雪中の危険場면을VR映像で疑似体験



03 アンケート・振り返り

アンケートの記入
危険な行動と身近な安全対策を
その場で振り返り、共有



出典：株式会社キシブル

実施時の留意点

- VR（仮想現実）動画には一部、恐怖喚起表現が含まれるため、体験者に過度な心理的負担が生じないように体験会を設計します。
- 高齢者の体調やVR酔いに配慮し、体験中いつでも離脱できるようにするとともに、講師による解説・フォローを組み込みます。
- 体験が難しい方には通常画面での視聴などの代替方法も用意し、体験者の安全性と倫理的妥当性に十分配慮した内容・手順で実施します。

□ 講話後アンケート調査

- 講話・VR体験の理解度と、安全行動への意向を把握します。（ご協力をお願い）

アンケート設問（案）※回答時間5分程度

質問項目		項目の例	回答形式
属性		年代、性別、世帯の人数、屋根の形（落雪式・無落雪など）	選択式
普段の雪下ろし習慣		屋根雪下ろしの習慣、安全带・命綱・ヘルメットの使用	選択式
体験を通した意識	信頼	講話内容は信頼できる、映像は実際の雪下ろしに近い	5段階評価
	恐怖と脅威の評価	恐怖、深刻さ、自分が事故に遭う可能性	5段階評価
	理解	講話内容の理解度	5段階評価
	対策への納得	対策は効果がある、自分にもできる等	5段階評価
	危険な作業を避ける意図	「今冬は一人で屋根に上らない」「命綱を付ける」「業者や村に相談する」	5段階評価
VRの体験の評価		その場にいる感じ（1～2問）、気分の悪さ・めまい、高い所が苦手か	5段階評価
講習会でやってほしいこと		安全な雪下ろしの実演、除雪用具の使い方、命綱・ヘルメットの着用体験など	選択式・記述
冬を安全に生活するために支援してほしいこと		屋根雪下ろし・玄関前の除雪、除雪費用の助成、見守り・声掛け、通院・買い物の移動など	選択式・記述
高齢者が感じた危険な経験		屋根・はしごからの転落しそうな経験、落雪、除雪機での危険、作業中の体調不良など	選択式・記述

☐ 令和8年度のスケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
方針（原案）の検討・作成										
先進地調査										
関係者との連絡・調整										
方針（案）の修正・確定										
協議会（計2回想定）										
冬の安全対策講話										

主要日程：協議会 10/20 ／ 安全対策講話 11/19